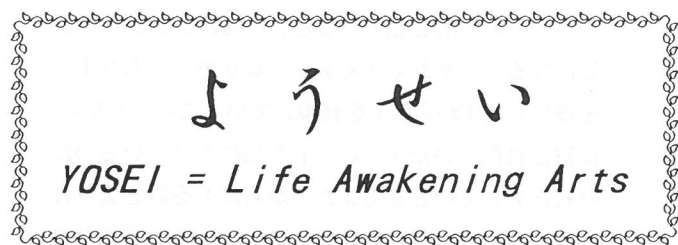


ようせい  
大学体育養生学研究会

第14号



- ▷ 巻頭言
- ▷ 中国研修会：感想文3題
- ▷ 第3回常任理事会報告
- ▷ 図書刊行計画：詳細決定
- ▷ 「研究会2002」の要項

事務局：東京女子大学文理学部・横沢研究室内

FAX・03-3396-9996（問い合わせ受付）

本会のモットーは「共生原理」

## 「研究会」への期待

ようせい  
大学体育養生学研究会

顧問 伊藤 順 藏

大学体育養生学研究会設立後の業績は、着実に素晴らしくご同慶の至りです。もちろんのこと関係者の周到な努力の成果であるが、そのきっかけとなったことは(株)全国大学体育連合の研修事業として築いてきた伝統が大切な基盤となっていることも事実であろう。長らく「体育連合」にかかわってきた一人として、そのあたりの関聯について触れてみることにする。

体育連合ではじめて中国事情に触れたのは昭和60年度研修会で、林勲氏の「中国におけ大学共通体育授業の現状」と題する発表であった（機関誌「大学体育」第26号に掲載。以下同じ）。ついで「30号」に楊名時先生が「和の太極拳」を寄稿された。さらに平成元年度研修会の実技研修で伊藤アサ子先生が、「太極拳」を指導されている（38号）。そこでいよいよ具体的な動きが始まることになる。

平成五年三月、体育連合「研修部」（部長＝鎌田、副部長＝遠藤、委員＝池田・横沢・川和田・坂本・福本の各先生）が中心になって、上海体育学院の協力のもとに、体験学習と視察を兼ねて、「中国ウエルネス体験研修と日中交流」に12名が参加する（52号）。それ以降、毎年、海外研修会の可能性の検討

を目的にして、中国の健康・養生思想などの研修視察旅行が実施された（55号・57号・60号・63号・66号・69号）。

また体育連合の中央研修会で、「呼吸法」や「気功」（56号）、「太極拳」（61号・62号）など中国養生法にもとづく実技研修が実施されるようになった。実に中国上海での研修会と併設しての授業開発研究の試みが、日本の研究者と上海体育学院から招聘した講師を交えて、研修会として実施されたのである（61号・64号）。このように養生法の研修は中

### プロフィール

1931年長野県生まれ。早稲田大学名誉教授。体育学専攻。1957年早稲田大学大学院商学研究科修士課程修了。東京五輪日本男子バスケットチーム強化コーチ。早稲田大学体育局長・文部省保健体育審議会委員・(株)全国大学体育連合理事長・大学スケート研究会会長などを歴任。著書に「バスケットボール：基本技術と実践テクニック」「アイススケート」「古代エジプトのスポーツ」（翻訳・共）ほか。本会顧問。

国と日本で着実に成果をあげているが、なんといっても、張勇先生という格好の「道案内人」の存在が大きい。

私は個人の資格で三回目から連続して上海の研修会に参加しているのだが、上海体育学院としては、その私の体育連合の「理事長」としての肩書を重視され、中国側の熱意を事有るごとに強調されたことは記憶に新しい。上海体育学院は国立なのだが、独立採算制の一面があって、外貨獲得による財政上の問題と積極的大学の経営の大きな柱としての国際交流の促進などの背景も働いて、日本の全国的組織との連携に意欲を燃やしていた。しかし、体育連合の運営委員会では、「連合」の目的に照らして、財政面も含めて外部の組織の立ち上げを期待する建議があって、多少の紆余曲折もありはしたものの「大学体育養生学研究会」が誕生したというわけである。そしてこれは、やはり、正解であった。

組織の活性化には、中国に純粋な興味を抱き情熱を注ぐ若き教育者・研究者にも、研究会の運営に参加してもらうことが急務であるように思う。研究会に期待するところ大なるものがある。

## 第9回中国養生法研修会

— 参加してみても —

恒例の海外研修会は2002年9月3～8日の間に実施。23名の参加者を得て多くの成果を収めることができました。3名の感想文が寄せられています。

### 健康への意識の高さを

園部真理（東京女子大学）

今回初参加、初海外でしたので、すべてが新鮮でした。特に朝の公園での太極拳などをなさる多くの一般の方々がとても印象的でした。日本人もこの健康への意識の高さを是非見習っていくべきではないかと思いました。錚々たる方々と一緒に内容の濃い、充実したプログラムに、ただ参加させていただきましたことを恵みであると感謝致しております。皆様のお姿に接して養生法研究は日中友好の上でも意義のあることだと思いました。謝謝。

### 展望が見えてきた

池田裕恵（東洋英和女学院大学）

現代人の生活を見ていると、なんだかおかしいと気になることがたくさんある。なかでも「あたま」を優先して「からだ」を軽視していること、「モノ」に冒され傷ついた「こころ」を気にかけているのだけれども、そのときもまた「からだ」を置き去りにしているのではないかということである。貝原益軒の「養生訓」に、また、中国養生法には近代西洋の医学や人間観にない何か異質なものが隠されているように思える。一度自分で、実際に動いてみよう、呼吸を整えることをしてみたい。いま体感して、「身」の教育に大いなる示唆を得て、展望が見えてきた研修となった。

### はじめてのチベット訪問

美馬美千代（上智大学）

目前に悠然と立つポタラ宮。念願のチベットは、見聞するすべてが未知の光景であり、感動とともに過ごす4日間が瞬く間でした。特に印象的だったことは、真っ青な空、穏やかな川と連山のなかで仏に守られて生活する人びとの姿。お釈迦様に向かってひたすら五体投地の祈りを捧げる青年。民家の庭に置いたソーラーヒーター。毛足が長く遅いヤクなど。爽快体験では、医学病院での気功の実技指導を受講したり、標高4000mのカンデン寺で解放感に誘引されて養生実践をしたりなど。すっかりスローペースを身につけた私たちは、帰路で突然現れた虹と沿道に咲くコスモスに見送られ、行程のしめくくりも感動的でした。

## 総会案内

2002年度の総会を下記のとおりで開催します。

記

日時 2003年3月8日（土）午後5時～6時

会場 明治学院大学

- 議題
- ① 役員改選
  - ② 2003年度事業計画について
  - ③ 2003年度予算案について
  - ④ その他

### 第3回常任理事会報告

日時 2002年10月13日 12:00~13:00  
会場 埼玉大学「大学会館2階小会議室」

#### 議題 (1) 審議事項

- ① 2002年度研究会について  
日時=2003年3月8日~9日  
会場=明治学院大学
- ② 役員改選について  
次期総会時に役員改選を確認
- ③ 総会について  
日時=2003年3月8日  
会場=明治学院大学

#### (2) 報告事項

- ① 第9回中国養生法研修会報告
- ② 図書刊行準備状況
- ③ ニューズレター第14号発行計画
- ④ 「ようせい体操」創作計画

短信：兪継英上海体育学院学長を迎えて

横沢喜久子  
(本会・理事長)

上海体育学院の兪継英学長が2002年5月に仙台市の仙台大学との交流締結調印のために来日されました。その後、兪学長「ご一行3名」は、4日間（5月11~14日）の大学体育養生学研究会の有志の方々のお世話で東京ライフを楽しんでいただき、帰国されました。兪学長を囲む臨時研究会では総勢16名の方々に集まっていただき、歓迎会も開催することができました。兪学長には東京女子大学における学生相手の「特別授業」で講義をしていただき、「中国学生の運動・スポーツ事情」の最新情報に接して学生は大いに勉強することができました。

東京に立ち寄られたのには理由があります。兪学長には大阪で開催した「大阪ねりんピック2000協賛事業：日中共同健康フォーラム」（2000年7月・本会との共同開催）で講演をお願いしていましたが、中国の国内事情で急遽来日を取り止めざるをえないことになってしまって、プログラムに穴があいてし

まいました。そのことを気にしておられた兪学長は関係者に「お詫び」がしたいとのことでした。

ところで懇談会は終始にぎやかに進行し、「日中友好共同研究」をこれからますます活発にしたいとの合意に達しました。ご報告しておきます。

### 投稿論文募集

「大学体育養生学研究」（第6号）への投稿希望者は、下記のとおり、投稿してください。

#### 〔応募要項〕

募集原稿 ⇨ 総説・原著論文・研究報告  
執筆規定 ⇨ 400字詰原稿用紙「35枚」以内の字数で横書き・ワープロ原稿は「14000字」以内で横書き・その他の規定は「投稿規定」をご参照ください。

応募期限 ⇨ 2003年2月10日。それまでに本研究会事務局へ送付してください。

### 図書刊行計画：詳細決定

懸案の「図書刊行計画」の詳細が下記のとおり決定しました。発刊の2003年3月を目指して既に発刊業務に入っています。来る2002年度総会時には、「販売促進計画」なども含めて、改めて本会のこの第一回「図書出版事業」を成功させるために関係者のご協力をお願いすることになります。（図書刊行委員会）

#### 記

1. 書名 「からだの原点：21世紀の〔養生学〕への誘い」
2. 執筆 跡見順子・遠藤卓郎・田中朱美  
立川昭二・張 勇・伴 義孝  
湯浅泰雄・養老 横沢喜久子  
(順不同)

# 研究会2002

## — 開催のご案内 —

2003年3月8～9日

2002年度の「研究会」を下記の要項で実施します。研究発表には第一部門（一般研究発表）と第二部門（実践研究発表）の二部門を設けています。多数のご発表を期待しております。

と き 2003年3月8日（土）12:30-17:00  
3月9日（日）10:00-16:00

ところ 明治学院大学：東京都港区白金1-2-37／都営地下鉄浅草線「高輪台駅」下車徒歩3分。

参加費 2,000円

申込 参加申込は所定のFAX通信用紙で行ってください。申込期限は「2003年2月25日」。

発表 研究発表申込は所定のFAX通信用紙で行ってください。申込期限は「2003年2月10日」。

申込先 「参加申込」も「発表申込」も所定のFAX通信送信先の本会事務局となっております。

内 容

〔第一日目：3月8日〕

12:30 受付

13:00 第一部門「一般研究」発表

16:00 本部企画「シンポジウム」

17:30 総会

18:30 懇親会（会費：3,000円）

〔第二日目：3月9日〕

10:00 受付

10:30 第二部門「実践研究」発表

13:00 本部企画「実践研究討論会」

16:00 閉会

〔発表形式〕

(1) 第一部門「一般研究」発表

① 研究発表時間「20分」

② 座長裁量時間「10分」（進行時間を含む）

「発表」に対する「討論」を活発にするために、上記の発表時間と座長裁量時間を設けま

した。演題一つについてお一人の座長をお願いし、事前に担当演題の抄録にも目をとoshいていただいで討論材料を揃えていただくことになます。場合によっては、事前に、当事者同士(座長と発表者)で論点の整理作業を行っていただくことも想定されます。もちろん、発表会場ではフロアの参加者にも討論に加わっていただくように、座長の裁量ですべてを進行していただくことになります。

(2) 第二部門「実践研究」発表

本研究会の「会是」は「実践研究」を中心に会活動を展開することにあります。したがって、本研究会では、「実践研究」を高く評価してその発表の場の位置づけを確立し、関連領域の学術団体へも本研究会の姿勢を示したいと考えております。そのために2002年度大会からは、この実践研究部門を独立させて、単独のプログラムを組むことになりました。

① 研究発表時間「20分」

② 座長裁量時間「10分」（進行時間を含む）

発表時間等は上記のとおりですが、発表形式では、会員のみなさまの実践活動（学校での授業方式・文化教室での指導方法・独自の身体技法の創案内容・…）を「実演：単独または助手等と共に」「口頭発表」「資料発表」などを交えて独創的に行っていただくことを期待しております。

## 事務局だより

- ▷ 2002年度「会費」未納の方は、同封の振込用紙で、至急お振り込みください。
- ▷ 本年度の総会では任期満了にともなう役員改選があります。ご出席方をお願いします。

ようせい  
大学体育養生学研究会事務局

東京女子大学文理学部・横沢研究室内

FAX 03-3396-9996

☎167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1